

風"s・風のたよりオンライン版

2012/3/1 No.176

風のたより176号

2月21日～29日までAWEPインドネシア・スタディツアーリーに参加してきました。順次「名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会」のブログで報告します。さて3月のフェアトレード・デーは3月10日（土）です。東日本の大震災から1年。地震も津波も恐ろしいけれど、『原発事故さえなかつたら…』とつくづく思う。あまりにこの世とかけ離れた出来事だ。本当にあったことなのだろうかと思います。

3月の風"sのフェアトレード・デーは、ピーチャン（手編みキー・ホルダー）や手編みハートセットなど東日本の手作り品とフェアトレードクッキーをセットにしました。「忘れるもんですか！セット」500円以上お買い上げの方に、風"sのフェアトレード产品を10%引きで買えるチケットをお渡しします。（翌日から3ヶ月有効）。ピーチャンやハートセットをつくっている東日本人を思いうかべてつながっていきましょう。



■ アニメ「風が吹くとき」

以前アニメ「風が吹くとき」を映画館でみました。がっくり落ち込みました。

「さむがりやのサンタ」「スノーマン」で知られる世界的な絵本作家レイモンド・ブリッグズによる同名の原作「風が吹くとき」は1982年に出版されるやイギリス国内で50万部のベストセラー。アニメ化された1987年公開当時、 Chernobyl

原発事故翌年のヨーロッパでは大きな注目を浴び、イギリスを始め各国で大ヒットを記録したアニメです。

■ 政府の発表をいっさい疑わないジムとヒルダ

2人のたんたんとした日々はユーモラスで、悲しい。

主人公は、イギリスの片田舎で静かな年金生活をおくっている老夫婦のジムとヒルダ。

しかし、世界情勢は日に日に悪化の一途をたどっており、ある日、戦争が勃発する。2人は政府が発行したパンフレットに従って、保存食を用意しシェルターを作るなどの準備を始める。

そして突然、ラジオから3分後に核ミサイルが飛来すると告げられる。命からがらシェルターに逃げ込んだ2人はなんとか難を逃れるが、放射線が徐々に2人を蝕んでいく。救援がくると信じて止まない彼らは、互いを励ましながらも次第に衰弱していく。

■ 耳から分かるワークショップ

何年前にうけたのか記憶にないが、名古屋のYWCAでアメリカからみえたファシリテーターのもとこんな耳から知る世界の核保有の実態を知り愕然とした。

パチンコの玉のようなものが一つぽとんと落ちた。これが広島の原爆。そのあと、世界にある核はどれくらいかと目をつむって落とされる玉の音を聞いた。どんどん落ちてくる。ちっとも止まらない。あ～そんなにあるんだと耳から知った。

■ 福島からのメッセージ

日本中のみんなに、世界中のみんなに「忘れるな！ 目をそむけるな！」と今ある原発のこと、核保有の現状を考えるメッセージが福島から発信された。

この1年どのようにそれを受け取ってきたか……。原発をまだ推進しようとする今の私たちの国の思いは、国民の、人の思いとかけ離れすぎている。故郷を捨てなければならない人々のこと一番に考える国に住みたい。そのような国にしなければと思う。政治は大切だ。わたしたちの思いを受けてくれる人を選びたい。

まずは、一人一人が思いを馳せ続ける、福島をまた世界中につらい思いをしている人たちとも、どうやったら共に生きていけるのかを……。そして行動。

真剣に考えれば、あまりにも小さな存在の私だが、こんな時「私にできること」のクリキンディを思い出し、ちいさなことでも思い続ける、行動し続ける、いつか大きく世界が変わる、その喜びを想像して次世代へつなぐ行動をとってゆきたいと思う2012年の3月です。